

金融・労働ネットワークニュースNo 05

みずほで男女差別是正を要求 金融ユニオン

第一勧銀以来の男女平等の運動を引き継いで

みずほコーポレートから金融ユニオンに加入

金融ユニオンは、みずほフィナンシャルグループに対して、男女差別是正を求める取り組みを続けています。昨年7月、みずほコーポレート銀行外為事務部の古川厚子さんが基幹職4級への昇格を要求して金融ユニオンに加入しました。古川さんは、みずほ銀行に統合される前は旧第一勧業銀行で働いていました。

旧第一勧業銀行では、早くから差別是正のたたかいが進められ、1978年には同行の女性労働者の訴えで静岡労働基準監督署が賃金差別是正の勧告を行い、全国で5億円のバックペイが支払われました。1

また1986年に女性差別を正当化するコース別人事制度が導入された際には、8名の女性が頭取宛に「総合職を選択するが、転勤はしません」と要請書を提出。事実上の転勤なしの総合職発令を実現。その後も、一般職コースを選択せざるを得なかった女性たちの中から、粘り強く総合職へのコース転換を求めコース転換する労働者が出ています。古川さんも総合職（現在のみずほグループでは基幹職）への転換を実現しました。

しかし、女性が「基幹職」＝総合職に転換しても、男性ならほとんどが30歳までには到達する基幹職3級に据え置いたままにされます。

みずほグループでは先にみずほ銀行の中村清美さんが男女差別是正を求めて金融ユニオンに加入し（2009年8月）、粘り強く団体交渉を繰り返し、銀行を迫りました。団交には、上部団体金融労連の松木委員長、田畑書記長も参加し、昇格実現を要求し続けてきた中村さんに対して、上司らが不当な対応を行ってきたことなどを明らかにし、差別の実態を追及しました。精力的

な団体交渉を繰り返し行う中で、一定の前進があったことから、2011年2月に和解協定が調印されました

雇用機会均等法を「男女平等法」に

昨年8月に古川さんが、金融ユニオン加入を決意したのは、昨年の昇格発表（7月）を前に所属部長から説明を受けたときです。行政も、企業も企業における均等待遇実現を名目に「ポジティブアクション推進」を公言しています。これに基づいて昇格実現を求めた古川さんに対する部長の説明はポジティブアクションの趣旨すら理解していないものでした。古川さんは「何も変わっていない」と痛感し組合加入を決意しました。

古川さんと金融ユニオンは、みずほフィナンシャルグループ人事部と、毎月団体交渉を繰り返しています。また、みずほの女性の実態を社会的に訴えていく取り組みを強めています。昨年からは厚生労働省の労働政策審議会で雇用機会均等法の見直しが行われています。この審議に向けて全労連女性部や東京地評、均等待遇アクション21などが実効ある均等法の改正を求める取り組みを行っています。古川さんは、1月28日に開催されたシンポジウム（全労連などが主催）、3月20日の学習会（東京地評女性センター主催）、3月28日開催の「パート労働法と均等法の実効ある改正もとめる決起集会」（労働法制中央連絡会と全労連非正規センター）、5月8日に参議院議員会館で開催された「均等法を男女雇用平等法に！」（均等待遇アクション21と日本女性差別撤廃条約NGOネットワークが共催）などに、金融ユニオン組合員であるみずほのなかまらとともに参加して、要請に応じて発言。みずほフィナンシャルグループが「均等・両立推進企業」として厚生労働大臣賞を受けている一方で、コース別人事導入以前からの大きな男女賃金格差構造を継続したままの実態を明らかにし、真の均等待遇の実現を訴えています。

金融労組の動き

全損保第92回中央委員会を開催

賃上げなくしてデフレ脱却なし

3月13日、全損保は第92回中央委員会を東京で開催しました。中央委員会では、来賓の国民春闘共闘の大黒代表幹事、全国金融共闘の松井事務局長などからあいさつを受けました。全国金融共闘の松井事務局長は、賃上げなくして日本経済の改善はないと述べ「賃上げなくしてデフレ脱却なし」のチラシを作成して取り組む4月19日の金融共闘統一行動への参加を訴えました。

浦上委員長が議案第1号「2013年春闘方針」を提案しました。浦上委員長は、冒頭、東日本大震災、福島原発事故から2年を経過しても復興が進まない状況から一刻も早い復興を願うとともに、あらためて政治や経済が「人々が安心して暮らせる」ために果たす役割の重要性を強調しました。

春闘方針提案の中で、浦上委員長はいまなお不透明に深まる世界経済危機と、円安、株高局面による大企業の業績が急速に回復している状況を説明した上で、その利益が労働者の賃金や雇用、下請け企業、地域経済に回らない日本経済の問題を、賃上げを全面否定する財界の身勝手な態度とともに指摘しました。また、損保経営について「株価の上昇により決算指標は改善しているが、本業で収益を上げられない収支構造は改善されていない。経営の危機感は強まっている」とし、グループ内再編や各種施策による「歪み」が、損保の社会的役割を喪失させ、働くものの誇りと働きがい奪い、将来への不安を増大させていることを指摘し、「2013年春闘では、この間のとりくみで手にした仲間の声や思い、実態を力に、働くものの存在を示して、生活と雇用、労働条件を守ることに全力をあげる」との位置付けのもと、春闘の具体的な方針を説明しました。

この提案を受け、計32名の中執、中央委員による活発な発言がありました。審議の最後に執行部を代表して荒木書記長がまとめを行い、2013年春闘方針が全員一致で確立されました。

ボウリングと懇親会で交流

金融労連東京地連・東京金融共闘

4月13日、金融労連東京地連主催で「2013春闘勝利 金融のなかまの大ボウリング大会」が開催されました。大会には金融労連東京地連はじめ全証労協、全損保、八千代銀行従組、中央労金労組、金融ユニオンなど東京金融共闘加盟の組合員が参加しボウリングを楽しみ、懇親会で交流を深めました。

ボウリングは、1レーン4人の一チームで13レーンを使って、2ゲームのスコアを競いました。

ボウリングの後の懇親会では、東京地連の小林委員長が主催者あいさつを行い、東京金融共闘の鈴木議長の音頭で乾杯。鈴木議長は、乾杯に先立ち「東京金融共闘は証券、損保、信用金庫、銀行、労金など金融のなかまが一緒に活動できる貴重な組織。今日は労金チームの若い力に圧倒されたが、業態を超え、若者も年配者も一緒になって頑張ろう」と呼びかけ全員で乾杯しました。

ボウリングの成績は、団体優勝は中央労金労組チーム、個人男子は八千代従組上林さん、女子は1位東信労の松尾さんでした。

研究会報告

金融・労働研究ネットワークは去る2月11日、「アベノミクスの本質」をテーマに研究会を開催。元朝日新聞編集委員の山田厚史さんに報告していただきました。山田さんは日銀や金融行政を長く取材された経験をもとに官僚と政治家の結びつきを解説し、アベノミクスの裏にある実態を明らかにされました。なお山田さんはダイヤモンド社のビジネス情報サイト（ホームページ）で「山田厚史の『世界かわら版』」のページに連載執筆されています。ご参照ください。

金融・労働ネットワークニュース No05
金融・労働研究ネットワーク発行
102-0093
東京都千代田区平河町1-9-9
レフラスック平河町ビル402号室
TEL/FAX 03-3239-0170
e-mail finlabornet@ae.auone-net.jp